

【留学先紹介】

小児心臓外科医アメリカ臨床留学記

東京慈恵会医科大学医学部心臓外科学講座

宇 野 吉 雅

University of Michigan Medical Center, Mott Children's Hospital, Department of Pediatric Cardiovascular Surgery, 現在私はここに小児心臓外科の clinical fellow として留学しています。

アメリカ中西部に位置するミシガン州は五大湖の Michigan 湖と Huron 湖に挟まれ、自動車産業の中心といわれた Detroit で有名です。その Detroit から西へ車で1時間ほどのところにある Ann Arbor という街に、ミシガン大学のキャンパスがあります。市内の小高い丘に広がる医学部 medical center に私の勤務する小児病院もあり、総合病院や women's hospital に隣接しています。

小児心臓外科の主任教授である Dr. Edward L. Bove は小児先天性心疾患の外科手術成績、特に心臓移植しか治療法がないといわれていた左心低形成症候群に対する Norwood 手術の成績は全米でもトップランクであり、ミシガン州はもとより全米各州から様々な心疾患を持った患児が送られてきます。(medical center は Survival Flight と呼ばれるジェットヘリを2機持っており、24時間体制で患者や移植用臓器の搬送を行なっています。) そのため年間の開心術症例は約600~700例あり、これを私を含めた5名の外科スタッフでこなしています。しかしながらこの人数ですべてを行なうのはとうてい不可能で、Pediatric cardiology (小児循環器科) のスタッフとチームを組んで患者管理を行なっています。約30名からなる循環器グループは超音波、カテーテル検査を中心に診断、術前管理を担当し、私たち外科スタッフが手術、術後管理を行なうというシステムが確立しており、いかにもアメリカならではの合理性といえるでしょう。(術後の外来フォローも循環器医が担当します。) また入院期間が短く、術前は前日夜または当日朝に入院し、術後は軽症例で3~4

日、重症例でも10~14日で退院していくことには驚かされます。

次に日常生活を簡単に紹介します。まず平日は朝7時前からICU(集中治療室)の回診が始まり、8時すぎにはその日の手術の一例目の執刀となります。一日平均4例(時には5~6例)を2つの手術室で行なうため、開始時間は早いほど良いというわけです。(それにしてもアメリカ人は朝早いことに関してはまったく苦にせず、院内の各部署は早朝から動いています。その分仕事を終えて帰宅するのも驚くほど早いですが。)

私自身一日に2~3例をこなしていくため手術の間隔は時間が短く、細かい処置などがあるとゆっくり昼食など摂れるはずもなく、サンドウィッチをコーヒーで流し込むこともしばしばです。そして術後はまたICUの回診があり、その後で翌日の症例をチェックしているともう夜になっています。

また週に2回循環器全体のカンファレンスがあり、術前、術後症例の case study を行なっています。さらに土・日そして休日も朝7時半~8時からICUそして病棟の回診があり、これに加え心臓移植をはじめとする緊急手術が入るため、なかなか気が休まらない毎日が続いています。

以上簡単に私の留学先について紹介しました。日本の医療現場とはシステム、スタッフ様々な違いがあり(慣れるのに苦労しましたが)それぞれ一長一短で、今回の経験を日本に帰ってどのように活かしていくかいろいろと考えさせられますが、今後海外に留学される先生方のご参考になれば幸いです。また最後になりましたが、今回の留学に際し大変お世話になった Edward L. Bove 教授、そして心臓外科黒澤博身教授に感謝いたします。